

## 話し言葉における「といえは」「といたら」の意味機能の変化

許 夏玲 (ファイバーリン)  
東京学芸大学留学生センター  
hlhui@u-gakugei.ac.jp

### 1. はじめに

- ・ 話し言葉に現れる「といえは(と言えは/っていえは)」「といたら(と言ったら/っていたら)」の意味機能の変化についてより明確な解釈を試みることを目的とする。

(1) お兄ちゃんがどうしても留学したいといえは、お父さんもお母さんもそれ以上反対しないと思うよ。 (作例)

(2) これから文章を読みます。読み終わった後、「はい」といたら、私の読んだ通りに繰り返して下さい。

(<http://www.netwave.or.jp/wbox/tihotyek.htm>)

- ・ 用例は、インターネット上の文章、小説における会話文や日常会話から収集する。
- ・ 従属節で述べられている事柄が主節で述べられている事柄の仮定条件となることを表す。
- ・ ある話題を取り上げるときにも使われる。

(3) 日本人にもっともな地味のある芸能{といたら/といえは}やっぱり、独特な音楽の中で演じられる「京劇」ではないでしょうか。

([http://www.ktroad.ne.jp/kazumi-t/beijing/kyougek\).html](http://www.ktroad.ne.jp/kazumi-t/beijing/kyougek).html))

- ・ 条件形「ば」「たら」の研究： 北条 1964、益岡 1993、白川 1995 など  
ある表現の意味、接続の仕方などが提示されているだけで、話し手と聞き手が存在する対話において、実際どのような使用がなされるかについて明確にされているとは言えない。

(4) トム「やれる」

少年「やれない」

トム「やれると言ったらやれるんだ」 『新潮文庫 100 冊』

例(4): 仮定条件の表現ではない。

「たら」の「事実的用法」の分類(蓮沼 1993)に相当するものはない。<sup>1</sup>

- ・ 「たとえば」「といったら」から転じた「ってば」「ったら」の機能の変化

## 2. 従属節の一部としての意味機能

### 2.1. 仮定条件を表す

「ば」: 前件と後件の組み合わせによって時間を超えて成り立つ一般的な因果関係を表す。

「たら」: 前件で時空間の中に実現する個別的な事態を表し、後件でその実現に依存して成立する別の個別的な事態の導入を表す。(益岡 1993: 2~4)

前掲の例(1)(2) 既定条件を表す「たら」

#### 2.1.1 話し手の「desirability」を表す (赤塚 1998)

話し手がある仮定条件を含む命題を考え、その仮定条件を提示し、もしその条件の通りになれば、何か(望ましいことあるいは望ましくないこと)が実現するというを表す。(4)は「DESIRABLE-LEADS TO-DESIRABLE」の例文である。

(4) 彼にこの時計がほしいといえば、すぐ買ってくれるだろう。(作例)

#### 2.1.2 アドバイスを表す

・相手に何か勧めるという状況で、話し手がある望ましい事態の成立を仮定し、それを望ましい結果へ繋がる条件として相手に提示することによって、アドバイスを表すという機能が派生したと考える。

(5) 用事があって今日の授業を休みたいといったら、どうですか。(作例)

### 2.2 話し手の強い主張を表す

- ・自分の意見を繰り返して強く主張する
- ・「A といったら A だ」後件の部分はその前件の部分の繰り返しである。

---

<sup>1</sup>蓮沼(1993)は、「たら」には「仮定的用法」と「事実的用法」があると指摘した。「事実的用法」とは、一回的に生じた既定の事態の関係を叙述する用法である。さらに、蓮沼によると、事実的な「たら」の用法はおおむね、次の5つに分類できるという。

- (1) 窓を開けたらエーゲ海が目の前に見えた。 < 発見 >
- (2) 見上げていたら空から財布が降ってきた。 < 発見 >
- (3) 夜になったらみぞれは雪に変わった。 < 時 >
- (4) お化粧をしたら彼女は見ちがえるほどきれいになった。 < 反応 >
- (5) 彼は家に帰ったら友達に電話した。 < 連続 >

(蓮沼 1993: 78)

Aの部分では話し手が行う行動や相手の行動を要求するといった動作を伴う動詞が使われるようだ。

(6) ハック「やると言ったらやるよ、トム、おれは一年間、毎晩あの旅館へ通ってやる。昼のあいだ眠むって一晩じゅう見張ってやる」

( “ I said I would, Tom, and I ) will 『新潮文庫 100 冊』

(7) 「それ、お出し」と(冴子が)言った。鋭い口調だった。

お出しと言ったら、お出しなさい。あの人は、それ、私に下さったのよ。半分あんたにもあげる」 『新潮文庫 100 冊』

- ・ 仮定を表す副詞「もし」とは共起しない。

蓮沼(1993)で述べられている「事実的用法」の分類に相当するものはない。また、久野(1973)、Inoue(1979)では、会話調の文では、「たら」は後件にその主語的意図的にコントロールできるような動作を表すことができない、ないしは表しにくいことを指摘しているが、上記の例(4)(6)(7)は「たら」の後件にそれらの主語(話し手)が意図的にコントロールできるような動作を表しているにもかかわらず、「たら」は使える。例(4)(6)(7)のような「たら」の用法には、これまでの研究(蓮沼、久野ら)ではまだ触れられていない。

### 2.3 話題を提示する

- ・ 話し手がある話題をうけて、そこから連想されることについて述べたり、それについて説明を加えたりする。

- ・ 非難、不快などマイナスの感情が入っていない。 例(3)

(8) 申込者：安いのはどの方面でしょうか。

担当者：どちらかといえば、北米へ行く方がいくらかお安くなりませぬ。 (ATR)

## 3. 話し言葉の文末における表現の機能変化

3.1 前掲の2.1の仮定条件を表す「といえば」「と言ったら」： 基本的に従属節としての一部の意味機能を引き継いだもの。

### 3.2 縮約形「ってば」「ったら」

#### 3.2.1 話題の人物を非難する

- ・ 話し手が非難、不快、後悔などマイナスの感情を込めてある名詞句を話題として提示する。

(9) お父さん{てば/\*といえは}、赤ん坊に言うみたいなこと、おっしゃるんだもの。」 (国立国語研究所 1951: 93)

(10) ぶつかったのは、かあさんぞうのあしでした。

「まあ、このこ{つたら/\*といつたら}、どこにいったの。ずいぶんさがしたのよ。」 『まいごになったぞう』

### 3.2.2 相手の行動・認識変更を促す

・話し手が自分の気持ちや考えをなかなかわかってくれない相手に、非難や不快などマイナスの気持ちをこめて自分の主張を強調し、相手に何か行動を要求したり、認識変更を促したりする。

(11) 寅「どいてろ、どいてろ」

つね「およ、およしよ」

寅「表に出ろ！」

つね「およし{つてば /つたら }」 『男はつらいよ』

許(1999)で取り上げた「相手の話に反発する『ッテ』」と似た機能を持つと考えられる。

(12) 兄「ゆうべも言ったけどな。一番人気はトーテムーリって馬な」

妹「1 枠の 2 番でしょ」

兄「そうそう」

妹「わかってる{つて /つてば /つたら}」 『妹よ』

## 4. まとめ

### 引用文献

赤塚紀子(1998)「条件文と Desirability の仮説」『モダリティと発話行為』研究社出版

pp.2-94

久野日章(1973)「たら」「時を表わす『ト』」『日本文法研究』大修館書店

国立国語研究所(1951)『現代語の助詞・助動詞—用法と実例』秀英出版 pp.93

蓮沼昭子(1993)「『たら』と『と』の事実的用法をめぐって」『日本語の条件表現』益岡隆志

編 くらしお出版 pp.73-98

許夏玲(1999)「文末の『って』の意味と談話機能」『日本語教育』101号 pp.81-90

Inoue, K. 1979. 'On conditional connectives' 『日本語の基本構造に関する理論的実証的研究』(文部省科学研究費特定研究)